

## 義務教育の基礎を培う幼児教育の充実

学びの経験となる集団活動での「遊び」を、幼児教育の重要な学習として位置づけ、組織的・計画的な指導の充実を図ります。

また、幼児期の心身の健やかな発達を促すため、家庭と連携・協力した幼児教育を推進するとともに、幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との円滑な連携を推進します。

### ◎重点施策1 幼稚園教育の充実（担当：学務課）

#### 具体的施策の取り組み状況

- ① 幼稚園教育要領の全面実施にあたり、幼稚園教育要領に基づき、教育課程、指導計画を作成し、短期の計画(月案、週案)に下ろして、保育を実施しました。
- ② 特別支援教育を実施するため、発達障がい等に関する研修会に参加するとともに、発達障がい児を支援するため、特別支援教育園内委員会を設置し、個別の支援計画を立て保育を進めました。  
また、加配職員を配置し、支援体制を整えました。
- ③ 幼稚園評議員の活用にあたり、保護者や地域住民等の意向を聴くため、幼稚園評議員会を年3回開催し、開かれた幼稚園運営を推進しました。  
また、評議員に幼稚園運営や幼稚園教育を理解してもらうため、保育参観や行事に参加する機会を設けました。
- ④ 子育て支援を推進するため、幼稚園教諭による継続的な子育て相談を実施するとともに、専門コーディネーターによる相談会を年5回実施し、保護者の悩みに応える機会を設けました。  
また、保護者の子育て支援を目的とした、預かり保育や延長保育を、年間を通して実施しました。  
さらに、食育指導において、幼稚園で収穫した野菜を利用した保護者参加によるスープ作りを実施するとともに、保護者向けに食育だよりを発行し、幼稚園の食育取り組み状況を周知しました。
- ⑤ 地域に開かれた幼稚園を推進するため、未就園児園庭開放事業を、月1回開催しました。  
また、同じ年齢の幼児およびその保護者のために、のびのびと親子で遊んだり、コミュニケーションを図る機会を作りました。  
さらに、子育ての悩みに対応するため、未就園児保護者を対象とした子育て相談の機会を設けました。

## 自己点検・評価

- ① 各職員が、幼稚園教育要領を理解し、長期計画、短期計画に沿った保育を進めることができました。
- ② 研修会に参加したことで、発達障がい児への理解が深まり、それを踏まえた支援方法を探ることができました。

特別支援教育園内委員会においては、支援の方法について職員間で共通理解を図ることができました。

支援計画に基づく保育の実施では、成長の過程や指導法を具体化し、翌年に引き継ぐことができました。

加配職員を配置したことで、細やかな指導と安全を守ることができました。

今後についても、サポート手帳や個別の支援計画などで、成長の過程を幼稚園から進学校につなぐことができるような取組を行う必要があります。
- ③ 外部の方の幅広い意見を聞き、今後の方向性や改善箇所を把握することができました。

今後は、結果を基に改善を図っていくことが求められます。
- ④ 専門的な立場から、保護者の様々な悩みに応え、情報提供することができました。

また、保護者の子育てに対する不安や悩みを受け止め、気軽に話し合える場を提供することができ、子育ての負担軽減やリフレッシュにつながりました。

園児が育てた野菜を利用したスープ作りを実施することで、園児・保護者とともに食育への関心が深まり、偏食改善に向けた意識を高めることができました。
- ⑤ 親子または同年齢の子ども達の遊びの輪を広げるサポートができ、地域の親子同士がふれあう機会をつくることができました。

また、幼稚園生活への理解や期待をもたせることができたとともに、保護者の子育ての悩みの解消や親育てに貢献することができました。

## ◎重点施策2 保育所、幼稚園、小学校の連携の推進（担当：学務課）

### 具体的施策の取り組み状況

- ① （中央幼稚園）幼保一体化における諸施策を展開するため、幼保共通のカリキュラムを作成し保育を進めました。  
また、幼稚園教諭と保育士の協力体制を作り、幼保合同クラスの充実に努めました。  
さらに、保育園の調理員協力の下、定期的に野菜を使ったみそ汁等を園児に提供し、食育指導を進めました。
- ② （中央幼稚園・栗橋幼稚園）保育所・幼稚園・認定こども園・小学校との連携を図る諸施策の展開においては、小学校との連携を図る諸施策の一環として、小学校生活への不安解消や期待を高めるため、見学会や幼児、児童との交流会を実施しました。  
また、保育所・幼稚園・小学校の教師間の協力体制を整え、行事計画を立案し、実施しました。  
さらに、発達や学びに連続性を持たせるため、指導要録の送付や教師間の連絡会、協議会を実施しました。  
この他、幼児教育研究協議会に参加し、地域の方・幼稚園・保育園・小学校との意見交換をすることができました。

### 自己点検・評価

- ① （中央幼稚園）幼稚園、保育園の相互のよさを保育に活かすことができ、職員が幼保の立場の違いを理解し認め合えたことで、協力体制を構築することができました。  
幼保の管轄を超えて調理員協力の下、定期的のみそ汁の提供など、食育指導の実践を推進したことより、偏食改善などの結果が表れたと同時に、保護者の幼保一体化に対する理解を深めることができました。
- ② （中央幼稚園・栗橋幼稚園）施設の見学や小学生とのふれあいで、小学校生活が身近になり、期待をもたせることができました。  
保育所・幼稚園・小学校の教師間の連携や、幼児理解を促すことができ、小学校への滑らかな移行を推進することができました。  
幼児教育研究協議会では、各幼児教育施設の子どもの実体についての情報交換ができ、同じ視点に立って教育を考えることができました。さらに、小学校への滑らかな接続に向けての具体的な協議をし、実践に向けた提言をする役割を担うことが求められます。